

ボードスポーツからみた学習ダイナミクスの機序の
解明（研究の進捗発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 啓央 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026621

ボードスポーツからみた学習ダイナミクスの機序の解明

鈴木啓央（龍谷大学）

スポーツ指導場面において、同一の運動指導のなかで学習者によって学習の進度が異なることは指導者が多く経験することである。これに関して、Vereijiken (1992) は、学習者が新奇な課題に応じた新たな動きを発見するために、どのように環境情報や自身の運動情報を探索しているかという探索の仕方が学習進度に関わることを示唆している。これに則り、本研究では、キャスターボードを運動課題とし、学習者が新たな動きを探索する過程を縦断的に観察し、探索の仕方における個人差と学習進度の関係について明らかにすることを目的とした。この過程では学習者によって様々な身体部位を変化させるという仮定のもと、探索の仕方を表す指標として、体幹部の回旋動作の大きさや律動性、姿勢の変化などを検討し、より学習進度が早い学習者ほどこれらの指標において、現在の動作を過去の動作から変化させて動きを探索している傾向が示された。